

NO!!

環境大臣、石炭火力に否定的な考え 「新增設は認められない」

中川雅治環境大臣は、記者会見やメディアのインタビューでは、世界は脱石炭に向かっているという認識を示し、石炭火力発電にはCO₂の問題があり、温暖化対策に逆行するとして「経済性の観点のみで新增設は認められない」と答えています。

東京湾内の石炭火力発電所計画は中止に！

東京湾内では、2012年以降、横須賀の2基以外にも、袖ヶ浦2基、市原1基、千葉1基、の計6基もの石炭火力発電所建設計画が起りました。そのうち市原での計画は2017年3月に中止となりました。市原の計画は、2015年8月に環境大臣から「是認できない」と指摘されていたもので、その後、事業者である東燃ゼネラルと関西電力が中止にすると判断しました。

石炭火力発電所は将来「座礁資産」に。

パリ協定では、世界の気温上昇を止めるため、脱炭素社会をめざすことを決めました。もう化石燃料は燃やせない時代に入っているのです。世界の投資家や金融業界では、石炭関連事業からの融資を引き上げるダイベストメントが盛んに行われはじめています。石炭火力発電所は、今から建設しても、将来運転できなくなり、将来は座礁資産になると言われています。

横須賀火力発電所の計画に対して、あなたにもできることがあります

さまざまな問題を抱える横須賀火力発電所の問題について、わたしたちができるアクションがあります。自らの健康と横須賀の空気を守るためにぜひ行動をとりましょう。

YES!!

1 石炭火力発電所に関する問題をもっと知ろう。

横須賀火力発電所建設を考える会や気候ネットワークは学習会やセミナーを開催しています。くわしくは公報や nocoal-tokyobay.net の「横須賀の会」イベントをご確認ください。

2 横須賀に石炭火力発電所が計画されていることを広めよう。

この計画は、横須賀市をはじめ周辺自治体など影響を受ける近隣の人たちに知られていません。ぜひ一人でも多くの方にこの問題を伝えてください。

3 事業者に止める決断をしてもらうように声を届けよう。

事業者による説明会が開催される場合は公報でお知らせがあります。是非参加して事業者に直接疑問を投げかけてみましょう。



(株) JERA <http://www.jera.co.jp/>

横須賀火力発電所建設を考える会とは・・・

2017年4月8日に発足した、横須賀火力発電所に新規で石炭火力発電所が建設される問題について考える市民団体です。

(仮称)横須賀火力発電所新1・2号機建設計画については、市民の健康被害、地球温暖化への悪影響などを心配し、2016年から市民を対象とした勉強会や環境省や神奈川県知事への申入れを行ってきています。また、考える会のfacebook (<https://www.facebook.com/yokosuka.kangaerukai/>)でも、石炭火力発電所問題について積極的に情報発信しています。

連絡先: 横須賀火力発電所建設を考える会 共同代表 鈴木陸郎
TEL: 046-847-3253 Email: s-riku@jcom.home.ne.jp

協力: 石炭火力を考える東京湾の会 URL:<http://nocoal-tokyobay.net>
気候ネットワーク URL:<http://www.kiconet.org>

改訂版

久里浜に

石炭!?

今、横須賀に
石炭火力発電所建設計画が
あります

横須賀の火力発電所建設計画ってどんな計画なの？

横須賀市久里浜で計画されている「(仮称) 横須賀火力発電所新 1・2 号機建設計画」は、東京電力フュエル&パワー(株)と中部電力(株)が共同出資して設立した(株) JERA が、横須賀火力発電所内の発電設備を撤去し、新たに設備容量 65 万 kW の石炭火力発電設備 2 基を建設するものです。

現在、環境影響評価法等に基づく環境アセスメントの手続きが進められていますが、長期計画停止していた既存設備の更新と位置づけられ、環境負荷の実測値との比較が行われない等の課題を抱えています。また、既存設備解体工事は住民への説明も十分なまま既に進められています。そもそも石炭火力発電には非常に大きな問題があるため、今世界的には「石炭火力発電所」は廃止の方向で動いており、時代の流れに逆行した計画と言えます。

(仮称) 横須賀浦火力発電所新 1・2 号機 計画概要

事業社名	株式会社 JERA
出資者	東京電力フュエル & パワー(株)、中部電力(株)
住所	神奈川県横須賀市久里浜 9-2-1
設備容量	130 万 kW (65 万 kW × 2 基)
燃料	石炭 (360 万 t / 年)
運転開始 (予定)	1 号機 (2023 年)、2 号機 (2024 年)
CO ₂ 排出量	約 726 万トン -CO ₂ /年 ※
SO _x 排出濃度	14.0ppm ※
NO _x 排出濃度	15.0ppm ※
ばい塵排出濃度	5.0mg/m ³ N ※

※ 環境アセスメント準備書に基づく数値

問題 1 近隣住民の健康被害

光化学オキシダントは現状でも環境基準を満たしておらず、さらに大気汚染が進めば、健康被害が顕在化します。

問題 2 気候変動の加速

石炭火力は化石燃料の中でも一番多くの CO₂ を排出し、その排出量は LNG の約 2 倍。気候変動を加速させてしまいます。

問題 3 防災上の安全の問題

建設予定地は 1950 年代に埋立て等による造成地。今後の大地震発生時の液化化、耐震性に不安があります。



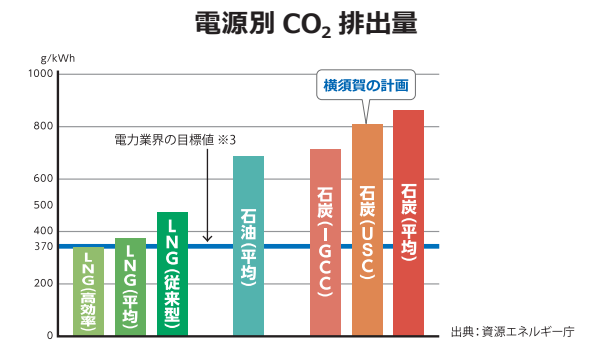
排出される大気汚染物質は、そんなに問題があるの？

A あります！

石炭火力発電所からは SO_x (硫黄酸化物) が排出されます (LNG は排出ゼロ)。SO_x は呼吸機能に影響を及ぼし、眼の粘膜に刺激を与えるほか、酸性雨の原因物質の一つでもあります。また石炭は、LNG よりも多くの NO_x (窒素酸化物)、ばい塵、PM2.5、水銀等を排出します。また、石炭火力発電所からだけではなく、燃料である石炭や燃焼後の石炭灰の搬入出を行う船舶の係留は居住地に近く、搬入出作業時の汚染物質の影響も心配されます。

A 加速させます！

横須賀に計画されている発電技術は、「超々臨界圧 (USC)」という技術です。「最新型高効率発電」とされていますが、高効率の LNG 火力発電に比較して約 2 倍の CO₂ を排出します。気候変動対策のパリ協定では今世紀後半には人為的 CO₂ 排出をゼロにすることが決まっており、この計画は「パリ協定」に逆行するものです。



※1 石炭発電の使用電力量あたりの CO₂ 排出量は、最新型でも約 800g-CO₂/kWh。一方、天然ガス火力発電所は、最新コンバインドサイクルで約 350g-CO₂/kWh。
 ※2 石炭ガス化複合発電 (IGCC) の使用電力量あたりの CO₂ 排出量は、約 700g-CO₂/kWh 程度。
 ※3 電気事業者団体の 2030 年度の排出係数目標 (370g-CO₂/kWh)

新しい設備だから問題はないんじゃない？

A いいえ、問題です。

事業者は、旧設備がフル稼働していた時の大気汚染物質排出量を「現状」として計画と比較していますが、2014 年 4 月には全機停止して排出量がゼロとなっています。実態は排出がないところから、突然排出が増えることになるのです。この点は、前横須賀市長も現況との比較を実施するよう事業者に求めました。神奈川県知事も、環境負荷の高い石炭を燃料として選択した理由の説明やその保全措置の考えが十分でないことなどを指摘しています。また、既存設備の解体工事については、十分な住民説明もなされないうまま、いままですに進んでいるのです。



事業者と横須賀市は公害防止協定を結んでいます。協定の値は SO_x が 494.2 m³ N/h、NO_x が 482.7 m³ N/h などと非常に緩いものです。事業者はこの数字を示し、現状よりも「改善される」などと説明していますが、決して改善されているわけではありません。

横須賀火力発電所の主なあゆみ

1960 年	石炭火力発電所として発足
～1970 年	2～8号機順次運転開始
1972 年	燃料を主に重油・石油へ転換
2010 年 4 月	全機長期計画停止
2011 年 4 月	3、4号機を再開
2014 年 4 月	再度全機長期計画停止
2017 年 3 月	全機廃止
2017 年 5 月	解体工事着工

横須賀火力発電所の計画

	過去の実績値 ※1		新計画
	2012	2013	新 1・2 号機
燃料	石油		石炭
設備容量	70 万 kW (3・4号機)		130 万 kW
CO ₂ 排出量	264 万 t-CO ₂	133 万 t-CO ₂	約 726 万 t-CO ₂ ※
SO _x	49.0m ³ N/h	32.0m ³ N/h	約 58m ³ N/h ※2
NO _x	84.3m ³ N/h	44.2m ³ N/h	約 66m ³ N/h ※2
ばい塵	?	?	約 22kg/h ※2

※1 公害防止協定に基づき横須賀市に報告された数値
 ※2 環境アセスメント準備書に基づく数値